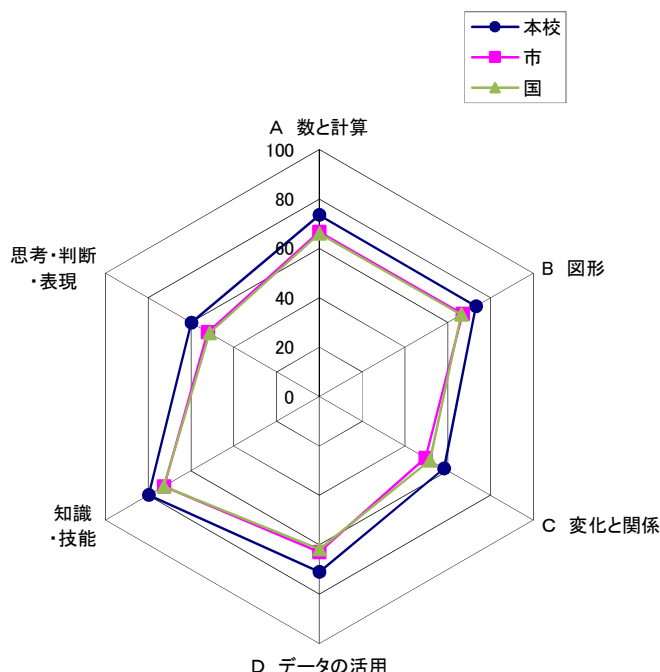


# 宇都宮市立錦小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	73.5	66.7	66.0
	B 図形	73.2	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	58.3	49.6	51.7
	D データの活用	71.0	62.9	61.8
観点	知識・技能	79.8	72.6	72.8
	思考・判断・表現	59.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、国の平均正答率より高い。</li> <li>○数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題では、正答率が94.6%で国の正答率を6.1ポイント上回った。</li> <li>○除数が小数である場合の除法の計算をする問題の正答率は82.1%で、国の正答率を12.0ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、国の正答率より高いものの、無回答も見られるので、朝の学習や宿題などで引き続き、既習の計算問題を繰り返し復習する機会をつくり、確実に定着するように指導する。</li> </ul>
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、国の平均正答率より高い。</li> <li>○直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題の正答率は82.1%で、国の正答率を10.8ポイント上回った。</li> <li>○球の直径の長ささと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題の正答率は42.9%で、国の正答率より6.4ポイント高かったがやや正答率が低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の性質や構成要素に関する基本的な知識・技能の定着を図る。</li> <li>○三角形、四角形、円、球の定義や性質の理解と作図の仕方について、確実に定着するよう、練習問題に取り組む機会を設け、指導する。</li> </ul>
C 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、国の平均正答率より高い。</li> <li>○速さの意味について理解しているかどうかをみる問題の正答率は69.6%で、国の正答率を15.5ポイント上回った。</li> <li>●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は28.6%で、国の正答率を2.4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の場面を使って、伴って変わる2つの数量を表で表したり、表した表から規則性を見付けたりする活動を取り入れ、比例関係についてより理解できるように指導する。</li> </ul>
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、国の平均正答率より高い。</li> <li>○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は66.1%で、国の正答率を22.1ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や身近な社会の事象におけるデータを学習で活用し、示された情報から必要な数値を読み取ることに慣れたり、読み取れることを考察したりすることができるように指導する。</li> </ul>